

内科的諸疾患ニ於ケル血液殘餘窒素量，尿素量， D-N量及ビ血清クロール量並ニ蛋白量ニ就テ (續報)

第 3 報

金澤醫科大學大里内科教室 (主任大里教授)

横 山 郡 一

Gunichi Yokoyama

(昭和15年11月1日受附 特別掲載)

抄 録

先ニ176例ノ内科的諸疾患ニ就キ報告スル所アリシガ，更ニ52例ヲ追加檢索セリ。52例中肺炎10例，腦膜炎4例，敗血症，肺壞疽，急性大腸炎，腎臟周圍膿瘍各1例，肺結核2例，腎臟疾患9例，肝臟疾患9例，心臓疾患3例，白血病4例，胃潰瘍2例其他ニ就キ，興味アル例ハ經過ヲ追ヒ，血液 Rest-N 及ビ $\overset{+}{U}$ -N 岩崎氏「アツオトメトリー」ニヨリ，其他 Cl 及ビ蛋白量ヲ測定セリ。然シテ肺炎ニ於テハ前報ノ所見ト同ジク，高熱期殊ニ分利期 Rest-N, $\overset{+}{U}$ -N, 非 $\overset{+}{U}$ -N (Resid-N) 及ビ D-N ノ増加アリ，一方有熱期血清蛋白量減少セル例

ト減少セザル例トヲ認め，「アルブミン」割合ノ減少ト「グロブリン」割合ノ増加及ビ血清 Cl ノ減少ヲ認めタリ。肝臟疾患ニ於テモ，肝臟腫瘍，肝硬變症，膽石症等ニ Rest-N 増加シ，此ノ際非 $\overset{+}{U}$ -N ノ増加アルヲ認め血清 Cl ハ肝硬變症ニ軽度ニ増加シ，肝臟癌ノ末期，肝腫瘍及ビ黄疸ニテ發熱アリシ例ニ減少ヲ認めタリ。其他重症ナ心臓瓣膜症ニ Rest-N ノ増加ヲ認め，Cl 量ハ稍増加シ，血清蛋白量ハ減少セルヲ認めタリ。其他腦膜炎，腎臟疾患，敗血症，肺壞疽，肺結核，白血病等ニ於テモ前報ニ於ケル所見ト全ク一致セル成績ヲ認めタリ。

目 次

第1章 緒 言	第4項 腎臟疾患
第2章 實驗方法	第5項 肝臟疾患
第3章 實驗成績	第6項 心臓疾患，白血病其他
第1項 正常値	第4章 總括並ニ考按
第2項 肺 炎	第5章 結 論
第3項 其他ノ有熱疾患	

第1章 緒 言

余ハ第1報ニ於テ諸種疾患患者ノ血液ノ二三ノ分劃窒素及ビ鹽素ニ就テ報告センガ，更ニ其

後ニ於ケル入院患者ニ就キテモ測定ヲ行ヒ，第1報記載ノ成績ヲ確メ，且ツ第1報ニ於テ症例

ノ多カラザリシ疾患ニ就キテハ之ヲ補充セントセリ。

又本報告ハ第2報ニ於テ記述セル諸種疾患ニ

於ケル血液 D-N ニ就キテノ 検索ヲ 補遺ヲモナスモノトス。

第2章 實驗方法

實驗方法ハ既ニ第1報及ビ第2報ニ於テ詳述セルヲ

以テ、此所ニ反復記載スルノ要ヲ見ズ。

第3章 實驗成績

第1項 正常値

正常値ニ就テハ既ニ第1報及ビ第2報ニ詳述

セシヲ以テ此處ニハ概略ヲ第1表ニ掲ゲタリ。

第1表 正常ノ平均値 (13例)

	Rest-N		\pm U-N	非 \pm U-N (Resid-N)	\pm U	$\frac{\pm U-N}{Rest-N} \%$	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白
	三鹽化醋酸											
	1mol	$\frac{1}{3}$ mol										
平均	27.4	32.0	11.7	15.7	25.0	42.7	4.6	382.1	58.6	1.825	62:38	7.99
最高値	30.4	35.4	15.4	18.9	33.0	54.1	6.3	392.8	63.0	2.00	69:31	8.92
最低値	25.1	30.2	8.5	10.8	18.2	32.8	2.2	371.2	55.2	1.70	59:41	7.25

第2項 肺炎

既ニ第1報ニ於テ15例ノ肺炎患者ニ於ケル測定成績ヲ報告セシガ、更ニ茲ニ其後ニ測定ヲ行ヒシ10例ノ入院患者ニ於ケル實驗成績ヲ報告ス。

第1例 背戸, 31歳, 女, 診断急性肺炎。

病 歴

昭和15年4月26日ヨリ右側胸痛及ビ熱感ヲ訴ヘ、咳嗽、喀痰アリ。4月28日入院ス。

入院時所見及ビ経過 入院時體温 39.5度, 呼吸促迫シ, 兩側下葉ニ相當シテ濁音ヲ呈シ, 小水泡性囉音ヲ聽ク, 5月8日ヨリ下熱セリ。

コノ例ニ於テハ第1回及ビ第2回ノ測定ニ於テ Rest-N ハ正常値ヨリ増加シ, 特ニ分利期ニ於ケル第2回ノ値ハ Rest-N 及ビ \pm U-N 共ニ正常ヨリ大ナリ (Rest-N 48.2mg/dl, \pm U-N 19.5mg/dl)。尙高熱期及ビ分利期ノ D-N 及ビ Resid-N モ正常値ヨリ大ナリ。Cl ハ分利期ニ最モ減少

セリ (360.2mg/dl)。而シテ恢復期ニ至リテハ Rest-N 及ビ \pm U-N ハ減少シ正常値ニ復シ, Cl ハ増加シ正常値ヲ示ス。尙血清蛋白量ハ高熱期及ビ分利期ニ減少シ, 「グロブリン割合ノ増加, 「アルブミン割合ノ減少アリ。

第2例 藤原, 29歳, 男, 診断急性肺炎。

病 歴

昭和15年2月23日ヨリ惡寒アリ, 發熱40度ニ達ス。喀痰ヲ訴フ, 2月26日入院ス。

入院時所見及ビ経過 發熱38度, 呼吸40, 右肺下葉ニ相當シ濁音ヲ呈シ, 捻髮音アリ。又左肺下葉ニ相當シ鼓濁音ヲ呈シ, 小水泡性囉音ヲ聽ク。喀痰ヨリ肺炎菌ヲ證明シ, 「レントゲン寫眞ニテ左右下葉及ビ中葉ニ陰影ヲ認ム。2月27日ヨリ下熱セシモ, 全身症狀ハ輕快ニ向ハザリシガ, 3月10日頃ヨリ漸次快方ニ向ヘリ。

第1回, 第2回, 第3回ニ於テ Rest-N 及ビ \pm U-N ノ値ハ大ナリ。殊ニ第1回ニ於テハ著シ

第 2 表 背 戸 急 性 肺 炎

日 附	病 日	Rest-N		+ U-N	非 + U-N (Resid-N)	+ U	+ U-N Rest-N %	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白 量	體 溫		尿		胸 部 所 見	備 考	
		三鹽化醋酸												量	最高	最低	量			蛋白
		1mol	1/3mol																	
15.5.2	高熱期 (第7日)	39.0	52.5	16.4	22.6	34.4	42.0	13.5	370.5	53.0	1.92	10:90	6.77	38.0	37.0	100	±	兩側下葉ハ濁音ヲ呈 シ水泡性囉音ヲキク	8/5 下熱	
15.5.7	分利期 (第12日)	48.2	59.2	19.5	28.7	41.0	40.4	11.0	360.2	52.0	1.85	20:80	6.55	37.0	36.0	800	—	"		
15.5.27	恢復期 (第32日)	32.8	40.6	12.0	20.8	25.2	36.5	7.8	394.1	56.5	1.95	32:68	7.49	平熱				上記ノ所見減少ス		

第 3 表 藤 原 急 性 肺 炎

日 附	病 日	Rest-N		+ U-N	非 + U-N (Resid-N)	+ U	+ U-N Rest-N %	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白 量	體 溫		尿		胸 部 所 見	備 考	
		三鹽化醋酸												量	最高	最低	量			蛋白
		1mol	1/3mol																	
15.2.27	有熱期 (第5日)	60.6	75.8	25.9	34.7	54.4	42.7	15.2	326.6	56.0			7.42	37.4	37.0		±	右上部濁音ヲ呈シ、 捻髮音及ビ氣管支音	26/4 血液 白血球數 14600	
15.3.1	分利期 (第8日)	47.4	75.4	18.5	28.9	38.9	39.0	28.0	316.0	49.4	1.66	36:64	5.99	平 熱				左下部小水泡性囉音		
15.3.6	(第13日)	39.6	60.9	14.6	25.0	30.7	36.8	21.3	312.4	51.0			6.34	"				"		
15.4.5	恢復期 (第43日)	34.0	39.9	9.6	24.4	20.2	28.2	5.9	369.2	63.3	1.95	65:35	8.99	"				上記ノ所見消失		

第 4 表 石 過 急 性 肺 炎

日 附	病 日	Rest-N		+ U-N	非 + U-N (Resid-N)	+ U	+ U-N Rest-N %	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白 量	體 溫		尿		胸 部 所 見	備 考	
		三鹽化醋酸												量	最高	最低	量			蛋白
		1mol	1/3mol																	
15.5.13	有熱期 (第7日)	44.7	77.3	18.0	26.7	37.8	40.2	32.6	372.7	46.5	1.60	25:75	5.36	38.2	36.0		+	右全葉ハ氣管支音 及ビ呼吸音微弱	血液白血球數 19800	
15.5.16	分利期 (第10日)	47.8	89.6	21.1	26.7	44.3	44.1	41.8	365.7	46.0	1.55	35:64	5.25	37.0	36.0		—	"	13/5 下熱	
15.5.23	(第17日)	36.1	40.7	8.9	27.2	18.7	24.6	4.6	359.5	52.0	1.85	16:84	6.55	38.0	37.0		—		31/5 死亡	

内科的諸疾患ニ於ケル血液殘餘窒素量、尿酸量、D-N量及ビ血清クロール量並ニ蛋白量ニ就テ

ク大ナル値ヲ示セリ (Rest-N 60.6mg/dl, \bar{U} -N 25.9mg/dl).

尙コノ例ニ於テ特ニ著シキハ有熱期, 殊ニ分利期ニ於テ D-N ノ値大ナル事ナリ. 又 Resid-N ノ値モ著シク大ナリ. Cl ハ有熱期及ビ分利期ニ著明ナ減少認メラル (312.4mg%). 尙分利期ニ於テ血清蛋白質量減少シ「グロブリン」ノ増加, 「アルブミン」ノ減少アリ.

第3例 石過, 42歳, 男, 診断急性肺炎.

病歴昭和15年5月6日ヨリ發熱39度, 咳嗽, 喀痰及ビ右側胸痛アリ. 5月12日入院ス.

入院時所見並ニ経過 入院時發熱38.2度, 右胸部ハ全汎ニ鼓濁音ヲ呈シ, 氣管支音ニシテ所々呼吸音微弱ナリ. 聲音振盪強盛ナリ. 「レ線寫眞ニテ右胸全汎ニ亙リ陰影ヲ認メ, 喀痰ヨリ肺炎双球菌ヲ證明ス. 5月13日分利シ病勢輕快ニ向ヘルモ, 5月23日頃ヨリ再ビ38度ノ發熱アリ. 5月31日病勢増悪シテ死ノ轉歸ヲ取レリ.

本例ハ一時輕快ニ向ヘルモ後再ビ増悪シテ死ノ轉歸ヲ取りシ例ナリ. 分利期ニ於ケルRest-N ハ著シク大ニシテ (47.8mg/dl), \bar{U} -N モ増加セリ. 第17日ノ快方ニ向ヘル時期ニ於テハRest-N 減少セリ. 尙 D-N ノ値ハ第7日及ビ第10日ノ分利期附近ニ於テハ著シク増加セル値ヲ示セリ (32.6mg% 及ビ 41.8mg%). 尙本例ハClハ漸次減少シ第17日ニ至リテモ尙著シキ低値ヲ示セリ (359.5mg%). 尙血清蛋白質ハ3回ニ亙ル成績ニテ常ニ正常値ヨリ減少シ「グロブリン」割合ノ増加及ビ「アルブミン」割合ノ減少ヲ示セリ.

第4例 濱田, 29歳, 男, 診断急性肺炎.

病歴

昭和15年5月14日發熱41度ニ達シ, 咳嗽, 喀痰及ビ胸痛アリ, 5月16日入院ス.

入院時所見及ビ経過 發熱39度ニシテ左側下部ニ濁音ヲ呈シ, 小水泡性囉音ヲ聴ク. 「レ線寫眞ニテ左側下葉ニ陰影ヲ認ム. 喀痰ヨリ肺炎双球菌ヲ證明セリ. 5月19日分利シ, 其後漸次快方ニ向ヘリ.

本例ニ於テモ Rest-N ハ分利期近クニ於テ最大ナリ (62.4mg/dl). 尙第8日ニ於テモ (下熱後2日) Rest-N ノ値ハ大ナリ (54.1mg/dl). 第23日ニ於ケル値ハ正常値ニ復セリ (28.1mg/dl).

第5表 濱田 急性肺炎

日附	病日	Rest-N		\bar{U} -N	+ \bar{U} -N (Resid-N)	+ \bar{U}	$\frac{+\bar{U}-N}{Rest-N} \%$	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白質量	體溫		尿蛋白質量	胸 部 所 見	考 備
		1mmol	$\frac{1}{3}$ mmol											最高	最低			
15. 5. 17	高熱期 (第4日)	63.4	96.6	28.9	34.5	60.7	46.3	33.2	347.9					39.5	38.0	+	右下部ハ濁音ヲ呈シ小水泡性囉音ヲ聴ク	17/5 血液白血球數 18400 分利 19/5
15. 5. 21	分利期 (第8日)	54.1	68.0	20.6	33.5	43.3	38.0	13.9	344.4	55.0	1.95	20:80	7.20	38.0	37.0	-	〃	
15. 6. 5	修復期 (第23日)	28.1	34.6	9.5	18.6	20.0	33.8	6.5	392.3	54.2	1.67	62:48	7.02				上記ノ所見減少	

\bar{U} -N, Resid-N ハイヅレモ第4日及ビ第8日ニ於テ増加セリ. 尙第4日ニ於テ特ニ D-N ノ値大ナリ (33.2mg/dl).

Cl ハ第4日及ビ第8日ニ著シク減少セリ (347.9mg/dl 及ビ 344.4mg/dl). 尙蛋白量ハ輕度ノ減少アリ. 「グロブリン割合増加シ」アルブミン割合ハ減少セリ. 恢復期ニテハ「グロブリン」及ビ「アルブミン割合」ハ正常値ヲ示セリ.

其他何回モ経過ヲ追ヒテ測定ヲ行ハザリシ例6例ニ就テハ第6表ニ表示セリ.

イヅレノ例モ高熱期或ヒハ分利期ニ於テ Rest-N, \bar{U} -N, Resid-N 及ビ D-N ノ増加アリ. Cl ハ減少シ, 三邊, 岡野等ノ例ハ血清蛋白量減少シ, 荒木, 平野等ノ例ハ正常値ノ下位ノ値ヲ示シ, 慢性肺炎ノ細川ノ例ハ正常値ノ上位ヲ示セリ. 小林, 平野等ノ例ヲ除ク他ノ4例ハイヅレモ「グロブリン割合」ノ増加ト「アルブミン割合」ノ減少顯著ナリ.

小 括

10例ノ肺炎患者ニ於テ Rest-N ハスベテ有熱期及ビ分利期ニ増加シ, 殊ニ第2例, 第4例, 第8例等ニ於テハ Rest-N ハ 60mg/dl ノ値ヲ越セリ. カハル際 \bar{U} -N 及ビ Resid-N トモニ増加セリ. 尙 D-N ノ値ハ高熱期及ビ分利期ニ著シク大ナリ (10mg/dl ヲ越ス). 殊ニ第2例, 第3例, 第4例等ニ著シク増加セリ (夫々 28.0mg/dl, 41.8mg/dl 及ビ 34.2mg/dl).

Cl ハ高熱期及ビ分利期ニ著シク減少セリ (最低 312.4mg/dl).

血清蛋白量ハ第1例, 第2例, 第3例, 第6例, 第7例等ニ於テ高熱期及ビ分利期ニ減少セリ. スベテノ例ニ「グロブリン割合」ノ増加ト「アルブミン割合」ノ減少アリ.

第3項 其他ノ有熱疾患

先ニ第1報ニ於テ余ハ流行性腦脊髄膜炎, 流行性腦炎及ビ結核性腦膜炎ノ例ニ於テ Rest-N ノ増加及ビ \bar{U} -N ノ増加ヲ認メ, 流行性腦脊髄膜炎及ビ結核性腦膜炎デハ血清 Cl ノ減少ヲ認メ, 流行性腦炎デハ末期ニ血清 Cl ノ増加スルヲ認メ, 一方血清蛋白量ハ流行性腦脊髄膜炎ヲ

炎 肺 第 6 表

患者	年齢	性別	日附	病日	診 斷	Rest-N		\bar{U} -N	非 \bar{U} -N (Resid-N)	\bar{U}	\bar{U} -N % Rest-N	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白量	體 温		尿 比 重	尿 蛋白	胸 部 所 見	備 考
						三鹽化窒素 Imol	Imol											最高	最低				
細川	22	♂	15.4.11		慢性肺炎	41.9	57.2	20.0	21.9	42.1	47.7	15.3	339.1	62.3	2.3	28:72	8.77	39.0	38.0	1020	±	右側上葉捻髪音, 中葉捻髪音	血液白血球 11000 24/4ヨリ發熱, 27/4下 熱, 血液白血球數14000 7/7發熱, 9/7血液白血 球數22400, 11/7下熱
三邊	26	♂	15.4.28	第5日	急性肺炎	36.6	44.9	12.0	24.6	25.2	32.8	8.7	346.1	53.0	1.90	12:88	6.77	37.0		+	右側下葉捻髪音及ビ囉音	血液白血球數14000 7/7發熱, 9/7血液白血 球數22400, 11/7下熱	
岡野	34	♀	15.7.10	第4日	"	35.7	45.5	11.7	24.0	24.6	32.7	9.8	356.7	49.0	1.75	12:88	5.90	39.5	38.1	+	左側下葉捻髪音及ビ囉音	血液白血球數14000 7/7發熱, 9/7血液白血 球數22400, 11/7下熱	
小林	52	♀	15.4.20	第5日	"	74.8	86.6	44.0	30.8	92.4	58.8	11.8	355.0	56.5	1.80	54:46	7.53	39.6	37.5	+	右全葉, 小水 泡性囉音	血液白血球數 22000 16/4ヨリ發熱, 24/4下 熱, 20/4血液白血球數 22000	
"	"	"	15.4.27	第12日	"	36.6	41.5	12.2	24.4	25.6	33.3	4.9	383.4	49.1	1.55	58:42	5.92	平 熱		+	右全葉, 小水 泡性囉音	血液白血球數 22000 16/4ヨリ發熱, 24/4下 熱, 20/4血液白血球數 22000	
荒木	27	♂	15.6.1	第2日	"	39.9	53.3	15.5	24.4	32.6	38.8	13.4	362.1	55.1			7.02	37.0		-	右全葉捻髪音	血液白血球數 17600, 31/5下 熱, 30/5發熱, 3/5血液白 球數17600, 31/5下 熱	
"	"	"	15.6.4	第5日	"	38.8	46.2	15.0	23.8	31.5	38.6	7.4	376.3	56.2	2.0	20:80	7.46	平 熱		-	右全葉捻髪音及ビ囉音	血液白血球數 17600, 31/5下 熱, 30/5發熱, 3/5血液白 球數17600, 31/5下 熱	
平野	68	♂	15.5.10		慢性肺炎 慢性肺炎及 急性肺炎	39.6	45.3	14.0	25.6	29.4	35.3	5.7	379.9					平 熱		±	右全葉管支 音及ビ囉音	血液白血球數9600, 浮腫 (+), 肝肥大ス	
"	"	"	15.5.13	第1日	"	40.9	46.4	17.0	23.9	35.7	41.5	5.5	372.3	54.5	1.78	47:53	7.09	38.0	37.0	±	右全葉管支 音及ビ囉音	血液白血球數9600, 浮腫 (+), 肝肥大ス	

第 7 表

患者	年齢 性	日 附	診 断	Rest-N		+ U-N	非+ U-N (Resid-N)	+ U	+ U-N Rest-N %	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白	體 温		尿			備 考
				三鹽化醋酸 1mol	醋 酸 1/3mol											最高	最低	量	比重	蛋白	
濱	25♂	15.1.9	流行性腦脊髓膜炎	35.7	44.0	12.4	23.3	26.1	34.7	8.3	384.3	52.2	1.65	54:46	6.59						6/1ヨリ發熱 17/1下熱 23/1ヨリ發病 15/3死亡
森河	15♂	15.3.5	結核性腹膜炎	37.6	49.8	13.3	24.3	27.9	35.4	12.2	358.7	58.1	1.96	40:60	7.87	38.0	37.5	500			
古田	24♀	15.8.2	流行性腦炎	52.9	58.5	26.1	26.8	54.8	49.3	5.6	390.5	62.0	2.17	40:60	8.71	39.3	37.0	600		士	血液白血球數 10400
米田	22♀	15.5.11	結核性腦膜炎	42.1	50.7	14.5	27.6	30.5	34.4	8.6	307.1	60.0	2.20	24:76	8.28	38.0	36.5			士	
宮地	45♀	15.1.21	腎臟周圍膿瘍	60.1	75.9	37.6	22.5	79.0	62.5	15.8	387.0	—	—	—	8.08	39.0	37.0	480		—	22/1死亡
高櫻	18♂	15.2.14	扁桃腺炎及ビ 氣管支炎	38.8	45.0	11.9	26.9	25.0	36.7	6.2	365.7	59.1	1.75	72:28	6.12	39.0	37.8			—	13/2發熱 血液白血球數 9400
佐々木	27♂	15.5.2	肺 浸 潤	32.5	49.9	10.0	22.5	21.1	30.7	17.4	356.7	50.0	1.80	10:90	6.12	39.0	38.0			—	
柴	45♂	15.5.2	〃	24.8	33.9	11.9	12.9	25.0	48.0	9.1	386.9	52.0	1.85	16:84	6.55	38.0	37.0			—	6/6死亡
西田	59♂	15.1.19	肺 壞 疽	27.8	43.5	10.1	17.7	21.2	36.3	15.7	379.9	54.1	1.93	17:83	7.00	39.0	38.0			—	
〃	〃	15.2.14	〃	39.4	52.7	12.8	26.6	26.9	32.5	13.3	372.7	56.5	2.02	20:80	7.53	37.4	36.0			—	死亡
馬場	23♂	14.3.14	敗血症(遷延 性心内膜炎)	32.4	44.3	10.0	22.4	21.1	30.8	11.9	388.4	57.0	2.00	30:70	7.63	38.5	37.0	1800	1020	+	13/6死亡
南出	58♂	15.5.30	肺 臟 癌	39.7	43.6	15.0	24.7	31.5	37.8	2.9	367.4	54.8	1.88	34:66	7.16					—	
佐野	60♀	15.2.26	急性大腸炎	53.1	65.0	25.1	28.0	52.7	47.3	11.9	368.8	61.5	2.02	50:50	8.60	37.2				—	21/2ヨリ下痢 1日7乃 至8回, 血液便(+), 6/3ヨリ輕快
〃	〃	15.3.1	〃	41.3	56.8	18.2	23.1	38.2	44.7	15.5	358.6	51.3	1.80	20:80	6.40	37.8				—	
〃	〃	15.4.8	〃	30.5		10.6	29.9	22.3	34.1		387.0	53.0	1.67	56:44	6.77	36.2				—	

除ク結核性腦膜炎及ビ流行性腦炎ノ2例ニ増加アルヲ認メタリ。

第7表ニ表示セル流行性腦脊髄膜炎ノ恢復期ニ入りシ時期ノ測定値ハ輕度ノRest-Nノ増加アルノミニシテ, 著シキ變化ヲ示サザルモ流行性腦炎ノ例ニテハRest-N及ビ \bar{U} -Nハ増加シ, 血清Clハ減少セズ, 血清蛋白量ハムシロ正常値ノ上位ヲ示シ, 「グロブリン割合ノ増加」アルブミン割合ノ減少セル等ハスベテ第1報ノ流行性腦炎ノ例トヨク一致セリ。尙2例ノ結核性腦膜炎ニ於テRest-N輕度ニ増加シ(42.1mg/dl及ビ37.6mg/dl), Clハ減少シ血清蛋白量ハ減少認メラレズ, 正常値又ハ正常値ノ上位ニシテ「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少アルヲ認メタリ。コノ所見モ第1報ノ結核性腦膜炎ノ例ニヨク一致セリ。

肺浸潤ノ佐々木, 柴ノ2例ニ於テハRest-N及ビ \bar{U} -Nハ正常値ニシテClハ正常値ヨリ減少シ, 血清蛋白量減少シ「グロブリン割合及ビ「アルブミン割合ノ増加ヲ示セリ。尙2例トモD-Nハ正常値ヨリ増加セリ(17.4mg/dl及ビ9.1mg/dl)。

西田ノ肺壞疽ノ例ハ末期ニRest-N輕度ニ増加シ, Clハ正常値下位ノ値ヲ示シ, 血清蛋白量ハ正常値ノ下位ニシテ「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少アリ。尙D-Nハ2回ノ測定ニ於テ常ニ正常値ヨリ大ナリ(15.7mg/dl及ビ13.3mg/dl)

敗血症(遷延性心内膜炎)ノ馬場ノ例ニ於テハRest-Nノ著シキ増加ナク, Clハ減少認メラレズ, 「グロブリン割合ノ増加アリ。尙D-Nハ正常値ヨリ大ナル値ヲ示セル等ハスベテ前報ノ敗血症ノ例ト一致セリ。

肺臓癌ノ一例ニテRest-N輕度ニ増加シ, Clハ減少シ, 血清蛋白量ハ正常値ノ下位ニシテ「グロブリン割合ノ増加アリ。

大腸炎ノ佐野ノ例ハ著シキ變化アリシタメ, 經過ヲ追ヒテ測定ヲ行ヘリ。初期(有熱期)下痢著シク全身症狀激シキ時期ニ於テハRest-N及ビ \bar{U} -Nノ増加アリ(Rest-N 53.1mg/dl及ビ \bar{U} -

N 25.1mg/dl)。D-Nノ値モ大ニシテ血清Cl量ノ減少アリ。之等ノ變化ハ症狀快方ニ向フト共ニ正常値ヘ戻リタリ。而シテ血清蛋白量ハ第1回ニ於テハ正常値ノ上位ヲ示セシガ, 第2回目ニ於テハ正常値ヨリ減少セリ。尙「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少ヲ認メタリ。

小 括

結核性腦膜炎2例及ビ流行性腦脊髄膜炎1例ニ於テRest-N, \bar{U} -Nノ増加及ビ血清Clノ減少アリ。

流行性腦炎ノ1例ニ於テRest-N, \bar{U} -Nノ増加及ビ血清Clノ増加アリ。而シテ結核性腦膜炎及ビ流行性腦炎ニ於テ血清蛋白量正常値ノ上位ノ値ヲ示シ, 「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少アリ。以上ノ成績ハ第1報ニ於テ報告セル成績トヨク一致セリ。

尙肺結核ノ2例ニ於テRest-N, \bar{U} -Nノ増加ハ認メラレズ, Cl及ビ血清蛋白量ノ減少アリ。肺壞疽ノ1例ニテR-N及ビD-Nノ値大ナル事, 又敗血症(遷延性心内膜炎)ノ1例デRest-Nノ増加ナクD-Nノ値大ニシテ血清Clノ減少ナク「グロブリン割合増加セル事等ハ第1報及ビ第2報ニ於ケル報告ト一致セリ。

尙急性大腸炎ノ例ニ於テRest-Nノ増加及ビClノ減少ヲ認メタリ。

第4項 腎臟疾患(第8表)

先 \parallel 第1報ニ於テ31例ノ腎臟疾患ニ就キ報告セシガ, 茲ニ更ニ9例ヲ追加セリ。

Rest-Nハ河西, 山本, 坂下, 橋等ノ例ハ正常値ノ上位ノ値ニシテ, 小室, 濱市, 淺井等ノ例ハ輕度ニ増加セリ。而シテ中江及ビ舟見ノ例ハ著シク増加ヲ示セリ。Rest-N増加セル例ニ \bar{U} -Nノ値大ナリ。

D-Nノ値ニハ著シキ變化ヲ認メズ。

Cl量ハ多クハ正常値ノ上位又ハ輕度ニ増加シ, 殊ニ河西, 山本, 濱市, 坂下等ハ増加セリ(399.4mg/dl—430.0mg/dl)。血清蛋白量ハ河西, 橋, 淺井等ガ正常値ナルヲ除キ, スベテ正常値ヨリ減少セル値ヲ示セリ。尙「アルブミン」及ビ

第 8 表

患者	年齡 性	日 附	診 斷	Rest-N		+U-N	非U-N (Resid-N)	+U	+U-N Rest-N%	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白 量	尿			浮腫	血 壓	備 考
				三鹽化醋酸	1mol											1/3mol	量	比重			
				1mol	1/3mol																
河西	41♀	14. 3. 13	慢性腎臟炎	29.0	36.4	14.0	15.0	29.4	48.3	7.4	404.7	58.1	1.95	40:60	7.87	2200	1010	+	±	210—110	腹水(+) 3/4 死亡
中江	56♂	14. 3. 4	慢性腎臟炎 (尿毒症)	97.0	105.9	67.5	29.5	144.7	69.6	8.9	359.0	45.2	1.52	40:60	5.07	350	1030	卅	+	140—90	
"	"	14. 3. 31	"	121.7		80.9	40.8				391.2	47.3			5.53	300	1022	卅	卅		
小室	48♀	15. 4. 8	慢性腎臟炎	35.8	40.9	12.2	23.6	25.6	34.1	5.1	397.6	53.0	1.65	58:42	6.98	400	1018	+	+	178—140	
山本	26♀	15. 4. 27	"	33.0	40.2	9.9	23.1	20.8	30.0	7.2	399.4	50.7	1.75	28:72	6.27	1000	1014	+	+	118—78	
濱市	31♀	15. 5. 4	"	37.1	38.7	14.9	22.2	31.3	40.2	1.6	408.3	46.0	1.60	22:78	5.25	600	1030	卅	-	190—126	
坂下	28♀	15. 7. 2	"	32.2	35.3	14.8	17.4	31.1	45.9	3.1	430.0				300	1036	+	±	150—115		
橘	28♀	15. 7. 11	"	30.4	36.4	11.0	19.4	23.1	36.2	6.0	379.9	62.6	1.98	60:40	8.84	800	1014	±	-	135—108	
舟見	61♂	15. 7. 27	"	65.3	72.1	37.5	27.8	78.8	57.4	6.8	392.0	45.5	1.61	15:85	5.14	200	1028	卅	卅	120—72	腹水(+) 2/6 死亡
淺井	37♀	15. 6. 25	腎臟結核	39.0	48.5	16.4	22.6	34.4	42.1	9.5	376.3	59.0	2.10	30:70	8.06	400	1018	卅	-		

第 9 表

患者	年齡 性	日 附	診 斷	Rest-N		+U-N	非U-N (Resid-N)	+U	+U-N Rest-N%	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白 量	尿			黃疸	腹水	肥大	備 考	
				三鹽化醋酸	1mol											1/3mol	量	比重					蛋白
				1mol	1/3mol																		
新家	57♂	14. 5. 2	肝硬變	30.5	36.3	11.9	18.6	25.0	39.0	5.8	398.0	46.8	1.65	20:80	5.43			-	-	-	-	浮腫(+)	
木内	38♀	15. 1. 26	肝臟癌	27.2	31.0	8.6	18.6	18.1	31.6	3.8	349.7	-	-		600			-	-	-	+	19/2死亡	
"	"	15. 2. 13	"	28.2	36.1	10.7	17.5	22.5	37.9	7.9	310.6	51.0	1.80	18:82	6.36	400			-	-	+		
山谷	45♀	15. 2. 27	膽石症	39.3	52.5	12.2	27.6	25.6	30.7	12.7	369.2	55.1	2.02	10:90	7.22	500			-	+	-	發熱	
原田	42♂	15. 4. 12	膽管癌?	28.0	38.0	7.0	21.0	14.7	25.0	10.0	387.0	63.5	2.1	50:50	9.03			-	卅	-	+	浮腫(+)	
宮田	60♂	15. 4. 28	肝腫瘍	45.5	60.9	15.1	30.4	31.7	33.2	15.4	369.3	56.3	2.05	16:84	7.69			-	+	-	卅		
鹽津	46♂	15. 5. 29	肝硬變	34.4	39.8	13.4	21.0	28.1	38.9	5.4	400.1	49.0	1.75	12:88	5.90			-	-	卅	-	發熱38度	
林	70♂	15. 5. 30	膽石症	41.9	57.0	13.8	28.1	29.0	32.9	15.1	385.5	57.0	1.80	56:44	7.63	1650			±	±	-		+
杉本	24♂	15. 6. 26	膽力タル性 黃疸	21.5	29.4	6.0	15.5	12.6	27.4	7.9	338.3	59.2	1.72	72:28	8.10			±	+	-	+		
"	"	15. 7. 10	"	21.4	27.6	8.8	12.6	18.5	41.1	6.2	366.7	55.3	1.8	50:50	7.27			-	-	-	-		
西村	17♀	15. 7. 13	肝腫瘍	28.5	31.5	12.0	16.5	25.2	42.1	3.0	360.3	60.6	2.1	38:62	8.41	400			-	±	+	卅	

3524

續

三

【 154 】

「グロブリン割合ハ橋ノ例ハ正常値ナルガ, 他ノ8例ニスペテ前者ノ割合ノ減少ト後者ノ割合ノ増加ヲ示シタリ.

第5項 肝臟疾患(第9表)

第1報ニ報告セル21例ノ肝臟疾患ニ, 更ニ茲ニ9例ノ肝臟疾患ニ於ケル測定成績ヲ追加セリ.

肝硬變症ノ新家, 鹽津ノ2例ニ於テ Rest-N 及ビ $\overset{+}{U}$ -N ノ著シキ増加ハ認メラレズ, イヅレモ正常値ノ上位ノ値ヲ示セリ. 而シテ Resid-N ハ正常値ヨリ軽度ノ増加セル値ヲ示セリ. D-N ハ著變ナク, Cl 量ハ正常値ヨリ軽度ニ増加又ハ正常値ノ上位ノ値ヲ示シタリ (398.0mg/dl 及ビ 400.1mg%). 血清蛋白量ハ2例トモ著シク減少シ「グロブリン割合ハ増加シ」アルブミン割合ハ減少ヲ示セリ.

膽石症ノ山谷, 林ノ2例ニ於テ Rest-N ハ軽度ニ増加セリ (39.8mg/dl 及ビ 41.9mg/dl). $\overset{+}{U}$ -N ハ正常値ニシテ, Resid-N ハ増加セリ (27.6mg/dl 及ビ 28.1mg/dl). D-N ハ2例トモ軽度ニ増加セリ. Cl ハ山谷ノ例ニ減少シ, 林ノ例ニ於テハ正常値ナリ. 血清蛋白量ハ正常値ニシテ「グロブリン割合ノ増加及ビ」アルブミン割合ノ減少アリ.

肝臟癌ノ木内, 及ビ膽管癌ノ原田ノ例ハ症狀ノ重キニ係ラズ, Rest-N ハ増加ナク, $\overset{+}{U}$ -N ノ増加モ認メラレズ, Resid-N ハ軽度ニ増加セル値ヲ示セリ. 木内ノ例ニテハ Cl ノ減少著明ニシテ, 尙血清蛋白量及ビ「アルブミン割合ノ減少アリ.

宮田及ビ西村ノ肝腫瘍ノ2例ニ於テ, 後者ニテハ Rest-N, $\overset{+}{U}$ -N ノ増加ナキモ, 前者ニテハ Rest-N ハ増加セリ. 尙 Resid-N ノ増加認メラル (30.4mg/dl). 而シテ D-N モ増加セリ. Cl ハ

兩例トモ減少シ, 血清蛋白量ハ正常値ナルガ, 「グロブリン割合ノ増加ト」アルブミン割合ノ減少アリ.

「カタル性黄疸ノ杉本ノ例ハ Rest-N, $\overset{+}{U}$ -N ノ増加ナク, 黄疸ノアル初期ニ於テ Cl ノ減少アリ. 血清蛋白量ハ變化ナシ.

第6項 心臟病, 白血病其他

先ニ報告セル8例ニ, 更ニ茲ニ3例ヲ追加セリ. 3例トモ心臟瓣膜閉鎖不全症ニシテ, 尿ニ蛋白ヲ證明シ, 全身ニ浮腫著明ニシテ, 殊ニ大橋, 秋田ノ例ハ代償不能アリシモノナリ. 3例ニ於テ Rest-N ハ増加シ, 殊ニ代償不能アル大橋, 秋田ノ例ハ大ナル値ヲ示シ (44.8mg/dl 及ビ 66.0mg/dl), $\overset{+}{U}$ -N モ増加シ, 一方 Resid-N ノ増加アリ. D-N ハ正常値ニ比シ變化ナク, Cl ハ1例ハ正常値ニシテ, 代償不能ノ2例ニ増加ヲ認メタリ (夫々 401.2mg/dl). 血清蛋白量ハ共ニ減少シ「アルブミン割合ハ減少シ」グロブリン割合ハ増加セリ.

次ニ4例ノ白血病ニ於テハ Rest-N 増加シ, 殊ニ大村ノ例ハ著明ニ増加セリ. 尙コノ例ニ著シキハ $\overset{+}{U}$ -N ノ値ハ増加ナクシテ Resid-N ノ値著シク大ナル事ナリ (59.5mg/dl 及ビ 53.3mg/dl). 一方 D-N ノ値モ大ナリ. Cl ハ4例トモ減少シ, 血清蛋白量ハ大村及ビ作道ノ例ニ減少セリ. 4例トモ「グロブリン割合ノ増加及ビ」アルブミン割合ノ減少アリ.

胃潰瘍ノ中西及ビ田中ノ例デ, 前者デハ Rest-N ノ増加ハナキモ, 後者ハ大量ノ吐血後4日目ニ於テ Rest-N ハ軽度ニ増加アリ. $\overset{+}{U}$ -N モ増加セリ. 2例トモ Cl ハ正常値ニシテ, 血清蛋白量ノ著シキ減少ト「アルブミン割合ノ減少及ビ」グロブリン割合ノ増加アリ.

第 1 0 表

患者	年齢 性	日 附	診 断	Rest-N		+ U-N	+ U-N (Resid-N)	+ U	+ U-N % Rest-N	D-N	Cl	R	y	A:G	蛋白	尿			血 壓	浮腫	備 考
				三鹽化醋酸												量	比重	蛋白			
				Imol	1/3mol																
岩山	63♂	15.1.21	僧帽瓣閉鎖不全 症及ビ慢性腎炎	34.1	40.0	13.6	20.5	28.6	39.9	5.9	376.3	53.2	1.85	23:77	6.81	1500	1016	+	192-90	(+)	
大橋	53♂	15.2.13	大動脈閉鎖不全 症及ビ代償不能	44.8	50.3	19.7	25.1	41.4	43.9	5.5	401.2	51.1	1.80	18:82	6.36	1100	1022	±	140-70	+	31/3死亡
秋田	29♀	15.6.8	僧帽瓣閉鎖不 全症	66.0	-	29.0	37.0	60.9	43.9		401.1	52.5	1.725	41:59	6.66	800	1020	+	124-88	+	肝肥大, 25/6死亡
大村	39♂	14.2.21	慢性骨髓細胞 性白血病	71.3	89.4	11.8	59.5	25.3	16.6	18.1	353.2	50.8	1.80	12:84	6.30			-		-	肝及ビ脾肥大
〃	〃	14.3.22		61.8	78.3	8.5	53.3	17.9	13.7	16.5	397.7	53.4	1.825	30:70	6.85			-		-	
作道	31♀	15.1.21	骨髓細胞性白 血病	39.6	43.2	12.5	27.1	26.3	31.5	3.6	372.8	55.0	1.75	53:47	7.20			-	134-88	-	脾肥大
出村	40♂	15.1.21	〃	35.1	43.0	11.9	23.2	25.0	33.9	7.9	378.1	53.5	1.90	22:78	6.88	2000	1020	-		+	發熱 38.5°C 肝及ビ脾肥大
〃	〃	15.2.27	〃	34.6	62.7	10.5	24.1	22.1	30.3	28.1	356.8	57.8	1.95	39:61	7.81			-		-	肝, 脾及ビ淋巴 腺ノ肥大, 27/5 死亡
市山	34♀	15.3.8	白血病?	31.9	38.8	7.0	24.9	14.7	21.9	6.9	364.7	58.0	1.80	61:39	7.85	1400	1018	±		-	
村井	21♂	15.8.1	バンチ氏病	25.1	28.1	7.0	18.1	14.7	27.9	3.0	395.8	52.0	1.75	37:63	6.55			-		-	肝及ビ脾肥大
渡邊	43♂	15.6.6	バセドウ氏病	27.9	28.8	8.8	19.1	18.5	31.5	0.9	383.5	53.1	1.53	80:20	6.79			-		-	
中西	60♀	14.1.19	胃 潰 瘍	24.2	32.7	8.2	16.0	17.2	33.9	8.5	396.5	49.5	1.70	28:72	6.01			-		-	尿: 潜血 (++)
田中	59♂	15.7.17	〃	33.9	38.2	16.6	17.3	34.9	48.9	4.3	381.2	40.9	1.60	22:78	4.14			-		-	14/7約700cc吐血
米井	27♂	15.1.20	急性胃腸炎	29.6	38.6	9.8	19.8	20.6	33.1	9.0	394.1	50.0	1.55	64:36	6.12			-		-	

第4章 總括並ニ考按

先ニ内科的疾患 176 例ニ就テ血液 Rest-N, $\overset{+}{U}$ -N 及ビ血清 Cl 及ビ蛋白量等ニ就テ報告スル所アリシガ, 更ニ茲ニ 52 例ヲ追加シ第 1 報ノ所見ヲ確メタリ.

肺炎例 10 例ニ於テハイヅレモ高熱期, 殊ニ分利期ニ於テ血液内ノ之等物質ノ變動ハ最モ顯著ナルヲ認メタリ. 即チ Rest-N 増加シ, $\overset{+}{U}$ -N ト Resid-N ハ共ニ増加シ, 殊ニ分利期ニアリテハ D-N ノ値ノ増加著シキ事ヲ確認シタリ.

而シテ血清 Cl ハ有熱期及ビ分利期ニ著シキ減少アリ. 血清蛋白量ハ減少ヲ示ス例ト, 著シキ減少ヲ示サザル例トアリ. 又「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少等アリ. 之等ノ諸變化ハ恢復期ニ於テ漸次正常値ニ近ヅケリ. 而シテ之等ノ所見ハ第 1 報及ビ第 2 報ニ詳述セシ所ト全ク一致セリ.

更ニ流行性腦脊髄膜炎, 結核性腦膜炎及ビ流行性腦炎ノ例ニ於テハ Rest-N 及ビ $\overset{+}{U}$ -N ノ増加ヲ認メタリ. 腦膜又ハ腦ノ疾患ニテハ Rest-N ノ増加セル事ハ既ニ多クノ人ニヨリ認メラル所ナリ (Morawitz und Schloss; Wagner; Riccitelli; Nonnenbruch; 奥村; 山口; 山田, 井出, 青柳, 石井, 田邊氏等).

Cl ニ關シテハ Tesdal ハ結核性腦膜炎ニテ Cl ノ減少ヲ報告シ, Linder und Carmichael ハ結核性腦膜炎及ビ流行性腦脊髄膜炎ニテモ Cl ノ減少ヲ認メタリ. 余ハ 2 例ノ結核性腦膜炎ニ於テモ, 第 1 報ニ舉ゲシ 1 例ト同ジク Cl ノ減少アルヲ認メタリ.

而シテ流行性腦炎ノ 1 例ニ於テハ, 第 1 報ニ報告セル 1 例ト同ジク Cl ノ減少ヲ認メザリキ.

尙第 1 報ニ於テ流行性腦炎及ビ結核性腦膜炎ニテハ血清蛋白量ハ正常値ノ上位, 又ハ正常値ヨリ稍増加セル事ヲ報告セシガ, 本報ニ於テモ流行性腦炎及ビ結核性腦膜炎ノ例ニテ血清蛋白量ハ正常値ノ上位ノ値ヲ示セルヲ認メタリ. 而シテ流行性腦脊髄膜炎ノミハ前報ニ於ケル例ト同ジク血清蛋白量ハ正常値ヨリ減少ヲ示セリ.

尙血清蛋白量ニ關シテハ Tesdal ハ結核性腦膜炎デ増加スルトナシ, Linder und Carmichael モ結核性腦膜炎及ビ化膿性腦膜炎デ著明ニ増加スルトシ, 反對ニ Limbeck und Pick ハ化膿性腦膜炎デ減少セリトナス.

尙「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少ヲスベテノ例ニ認メタリ. 之ハ諸家ノ報告ト一致スル所ナリ.

尙肺結核ノ 2 例及ビ肺壞疽ノ 1 例, 又遷延性心内膜炎ノ 1 例, 並ニ經過ヲ追ヒ測定ヲ行ヒシ急性大腸炎ノ 1 例等ニ於ケル成績ハスベテ第 1 報及ビ第 2 報ニ於ケル成績ト全ク一致セリ. 即チ肺結核 2 例ニ於テハ Rest-N ハ正常値ト變リナク, Cl ト血清蛋白量及ビ「アルブミン割合ノ減少アリ, 又肺壞疽ニ於テハ Rest-N ノ軽度ノ増加ト Resid-N ノ増加並ニ蛋白高級分解產物ヲ表ス D-N ノ増加ガ認メラレ, 遷延性心内膜炎ニテハ Rest-N ノ増加ナク, D-N ノ増加アリ, 又血清 Cl ノ著シキ減少ハ認メラレズ, 大腸炎ニ於テハ Rest-N ノ増加ガ極期ニ認メラレ Cl ノ減少ヲ伴ヒ, 恢復期ニ於テハ之等ノ變化ハ正常ニ向フ等スベテ前報ノ所見ト一致セリ. 尙腎臟周圍膿瘍ニテ死亡セル 1 例ニ於テハ Rest-N ノカナリノ増加ト D-N ノ増加ヲ認メタリ.

腎臟疾患例中ノ尿毒症ヲ來セシ 1 例ニテハ末期ニ Rest-N 著シク増加シ (121.7mg/dl), $\overset{+}{U}$ -N ノミナラズ蛋白ノ分解充進ヲ思ハス Resid-N ノ増加アリ (40.8mg/dl), 尙先ニ前報ニ報告セシ尿毒症例ハスベテ血清 Cl ノ減少ヲ認メシガ, 本例ニテハソノ減少ハ認メラレザリキ (391.2mg/dl). 尙本報ニ舉ゲシ腎臟炎ノ例ハ多クハ浮腫著シキ例ニシテ, Cl ハハイヅレモ正常値ノ上位, 又ハ正常値ヨリ増加ヲ示シタリ. 浮腫アル腎疾患ニハ概シテソノ血液 Cl ノ増加セル事が報告サルノ所ナリ (Veil; Monakow; Beckmann; 山中; 上原; 小林; 林; 茶谷氏等). 尙大部分ノ例ニテ血清蛋白量ハ減少シ「グロブリン割合ハ増加セリ.

肝臓疾患 = 於テハ肝臓腫瘍、膽石症等 = Rest-N ノ増加ヲ認メシガ、其他ノ例 = テハ著シキ増加ヲ認メズ、 \bar{U} -Nモ著シキ増加ヲ示ス例ヲ見ズ。Rest-N ノ増加アル肝臓腫瘍及ビ膽石症ノ例 = テハ Resid-N ノ増加著明ナリ。Cl ハ肝硬變ノ2例 = 於テハ正常値ノ上位ニシテ肝臓癌、肝臓腫瘍、膽石症、「カタル性黄疸等 = ハ軽度ノ減少アリタリ。前報 = テハ肝疾患 = 於ケルCl多クハ正常値ニシテ、肝硬變ノ腹水著シキ例 = 増加シ、發熱長ク續キシ膽囊炎及ビ「ワイル氏病 = テ初期減少ヲ認メタルガ、本報 = 於テモ發熱アリシ例、及ビ肝臓癌ノ末期 = 於テ減少ヲ認メタリ。

其他重症心臓瓣膜症 = 於テ Rest-N ノ増加ヲ認メ、Clハスベテ増加ノ傾向アリ、血清蛋白量減少シ「グロブリン割合ノ増加アリタルハスベテ第1報ノ成績 = 一致セリ。

白血病 = テハ4例中3例 = 於テ Rest-N ノ増加アリ。殊 = 他ノ疾患ノ場合 = 比シ顯著ナル點ハ Resid-N ノ大ナル事ナリ。殊 = 1例 = 於テハ \bar{U} -NハRest-Nノ僅カ14%ヲ占ムル = 過ギザル例ヲ見タリ。而シテカ、ル場合多クハD-Nノ値大ナリ。Clハ4例トモ正常値ノ下位、又ハ減少セル値ヲ認メタル點モ第1報ノ所見 = 一致セリ。

第5章 結 論

(1) 本報 = 於テハ前報 = 引續キ、更 = 52例ノ内科的疾患ヲ追加檢索シ、不充分ナ點ヲ補ヘリ。

(2) 肺炎例10例 = 於テ高熱期及ビ分利期、就中分利期 = 於テ血液内諸物質ノ變化著シク、Rest-N、 \bar{U} -N及ビ非 \bar{U} -N(Resid-N)ハ増加シ、血清Clハ減少シ「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少ヲ認メタリ。血清蛋白量ハ有熱期減少セルモノト、然ラザルモノトアリ。高級蛋白分解産物タルD-Nハ高熱期及ビ殊 = 分利期 = 著シク大ナル値ヲ示セリ。

(3) 流行性腦炎ノ1例ハ前報 = 於ケル1例ト同ジク Rest-N及ビ \bar{U} -N増加シ血清Cl變化ナク、血清蛋白量正常値ノ上位ニシテ「グロブリン割合ノ減少「アルブミン割合ノ増加ヲ認メタリ。結核性腦膜炎2例 = 於テモ前報ノ1例 = 於ケル成績ト一致セリ。即チ Rest-N 増加シ血清Clハ著シク減少シ、血清蛋白量ハ正常値ノ上位ニシテ「グロブリン割合ノ増加ト「アルブミン割合ノ減少ヲ認メタリ。

(4) 肺結核ノ2例 = 於テ前報 = 於ケル成績ト一致シ Rest-N、 \bar{U} -Nハ増加セス、D-Nノ増加ヲ認メタリ。Clハ1例 = 於テ減少シ、血清蛋白量ハイヅレモ著シク減少シ「グロブリン割

合ハ増加シ「アルブミン割合ハ減少セリ。

(5) 肺壞疽ノ1例 = 於テハ之モ前報 = 於ケル成績ト一致シ、末期 = 於テ Rest-N 及ビ非 \bar{U} -N 軽度 = 増加シ、D-Nハ著シク増加シ、血清Cハ正常値ノ下位ニシテ、血清蛋白量ハ著シキ減少ナク、「グロブリン割合ノ増加及ビ「アルブミン割合ノ減少アルヲ認メタリ。

(6) 敗血症(遷延性心内膜炎)ノ1例 = 於テモ前報 = 於ケル成績ト一致セリ。即チ Rest-N 及ビ \bar{U} -Nノ著シキ増加ヲ認メズ、一方D-Nハ増加シ、血清Clハ減少ヲ認メズ、血清「アルブミン割合ノ減少ト「グロブリン割合ノ増加ヲ認メタリ。

(7) 急性大腸炎ノ例 = 於テモ、極期 = 於テ Rest-N、 \bar{U} -N、Resid-N 及ビD-Nノ増加ヲ認メ、血清Clハ減少シ「アルブミン割合減少シ「グロブリン割合増加セルヲ認メタリ。

(8) 腎臓疾患 = 於テモ大體 = 於テ前報ノ成績ト一致セリ。

(9) 肝臓疾患9例 = 於テ肝臓腫瘍、膽石症及ビ肝硬變症ノ1例 = Rest-Nハ増加シ、コノ場合 Resid-N(非 \bar{U} -N)ノ増加アリ。D-Nモ肝臓腫瘍及ビ膽石症 = 稍大ナル値ヲ示セリ。Clハ肝硬變症 = テハ正常値ヨリ軽度 = 増加セリ。即

テ第1報ニ於テ肝硬變症ニClノ増加ヲ認メン成績ト一致セリ。肝臟癌ノ末期及ビ肝腫瘍ノ2例，及ビ黃疸ヲ發熱續キシ例ニハ減少ヲ見タリ。血清蛋白量ハ肝硬變症ノ例ニ減少ヲ認メタリ。

(10) 重症ナ心臟瓣膜症ニRest-Nノ増加ヲ認メタリ。尙Cl量ハ正常値ノ上位，又ハ稍増加シ，血清蛋白量ノ減少ヲ見タルハ前報ノ成績ト一致セリ。

(11) 白血病ニ於テRest-N増加シ，殊ニResid-N (非 \bar{U} -N)ノ増加著明ニシテ，血清Clハ減少ノ傾向アリ。又D-Nハ增加セリ。蛋白

量モ多クハ減少ノ傾向ヲ示セルハ前報ノ成績ニ一致セリ。

(12) 胃出血アリシ胃潰瘍2例ニ於テハ血清Clハ減少ナク，血清蛋白量及ビ「アルブミン割合」ノ減少ト「グロブリン割合」ノ増加アルハ前報ノ所見ト一致セリ。

(13) 第1報ニ於テ取扱ヒタル176例ニ本報ノ52例ヲ加算シ，228例ニ就キテノ成績ヨリ一層本研究ノ内容ヲ豊富ナラシムルヲ得タリ。

擱筆スルニ當リ恩師大里教授ノ御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ深謝ス。尙「アツオトメトリー」ノ實施ニ就テ醫學教室岩崎教授及ビ教室員諸彦ノ御教示ヲ受ケタリ，茲ニ深く感謝ノ辭ヲ呈ス。